

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2011年8月)  
 ~5ヶ月ぶりの前月比マイナス~

発表日2011年10月19日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 エコノミスト 星野 卓也  
 TEL : 03-5221-4526

(単位: %)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
10	1-3月	1.3	3.9	0.7	0.8	7.4	28.0	▲0.4	▲0.5	0.7	▲12.4		
	4-6月	0.8	3.5	0.4	1.4	0.7	21.3	▲0.2	▲0.7	▲0.9	▲11.3		
	7-9月	0.7	3.2	0.6	1.8	▲1.0	14.0	0.0	▲0.6	1.9	▲3.2		
	10-12月	▲0.2	2.1	0.3	1.6	▲0.1	5.9	▲0.3	▲0.8	▲1.8	▲0.6		
11	1-3月	▲1.9	▲0.5	▲1.4	▲0.1	▲2.0	▲2.5	0.2	▲0.4	2.7	1.6		
	4-6月	▲0.4	▲1.7	▲0.1	▲0.6	▲4.0	▲6.8	0.4	0.3	▲7.1	▲4.6		
10	1月	1.7	2.1	1.9	0.2	3.4	18.2	▲0.7	0.2	0.7	▲14.4		
	2月	▲0.1	4.5	▲0.4	0.4	1.7	33.1	0.2	▲0.4	4.0	▲9.6		
	3月	▲0.2	5.1	▲1.1	1.9	0.1	32.4	▲0.1	▲1.3	▲3.6	▲13.0		
	4月	0.9	4.3	1.6	1.9	0.6	27.0	▲0.2	▲0.4	▲3.1	▲17.0		
	5月	0.0	3.4	▲0.3	1.2	▲0.1	20.7	0.0	▲0.9	6.3	▲8.1		
	6月	0.2	3.0	0.1	1.0	▲1.5	16.6	▲0.1	▲0.7	▲2.1	▲8.3		
	7月	1.1	3.3	0.7	1.6	0.3	14.6	0.1	▲0.1	0.8	▲5.3		
	8月	▲0.5	3.8	0.1	2.3	▲0.1	15.5	0.1	▲1.1	1.6	▲1.7		
	9月	▲0.4	2.7	▲0.4	1.3	▲0.8	12.1	▲0.1	▲0.6	▲1.9	▲2.8		
	10月	0.0	1.3	0.2	0.5	▲1.4	5.0	▲0.1	0.3	0.1	▲1.1		
	11月	0.3	2.7	0.6	2.5	1.6	7.0	▲0.4	▲1.9	▲1.4	▲0.5		
	12月	0.1	2.1	▲0.2	1.8	2.4	5.9	0.3	▲0.7	▲0.5	▲0.5		
11	1月	▲0.5	1.4	▲0.1	1.1	0.0	4.6	0.0	▲0.5	2.3	1.3		
	2月	0.9	2.0	0.8	2.0	1.8	2.9	0.2	▲0.3	6.3	4.4		
	3月	▲6.4	▲4.5	▲5.9	▲3.1	▲15.5	▲13.1	▲0.1	▲0.3	▲8.6	▲1.1		
	4月	1.7	▲4.0	2.7	▲2.3	1.6	▲13.6	▲0.1	0.4	▲5.7	▲3.8		
	5月	2.0	▲1.3	0.9	▲0.2	6.2	▲5.5	1.0	0.1	3.7	▲6.0		
	6月	2.2	0.2	1.9	0.9	3.8	▲1.7	0.3	1.1	▲0.3	▲4.5		
	7月	0.4	▲0.8	▲0.3	▲0.3	0.4	▲3.0	▲0.6	1.2	0.8	▲4.5		
	8月	▲0.5	0.0	▲0.2	0.2	0.6	0.4	0.2	▲0.1	2.5	▲3.5		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

## ○ 8月の全産業活動指数は5ヶ月ぶりの低下

8月の全産業活動指数は前月比▲0.5%と、ほぼコンセンサス(同: ▲0.4%、レンジ: 同▲1.0%~+0.5%)通りの結果となった。

内訳別にみると、第3次産業活動指数(前月比寄与度▲0.13%ポイント)がマイナス寄与、鉱工業生産指数(同+0.12%ポイント)、建設業活動指数(同+0.11%ポイント)、公務等活動指数(同+0.02%ポイント)はプラスに寄与した。

4月以降回復を続けた全産業活動指数は、第3次産業活動指数の低下、鉱工業生産指数の回復ペースの鈍化を背景に、5ヶ月ぶりに前月比マイナスに転じた。

## ○ 鉱工業生産指数は小幅の上昇、第3次産業活動指数は低下

8月の全産業活動指数について内訳別に見ると、第3次産業活動指数は前月比▲0.2%となった。卸売業などの企業部門がプラスに寄与する一方で、薄型テレビ販売の反動減や、天候不順の影響を受けた小売業や飲食業・飲食サービス業など家計部門が、全体の指数を押し下げた。

鉱工業生産指数は前月比+0.6%となった。5ヶ月連続のプラスとなったものの、7月(同+0.4%)に続いて小幅の伸びに留まっている。輸送機械工業は、海外の在庫不足解消に向けた自動車の増産が続いている

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

ことからプラスに寄与した一方、7月の地上デジタル放送完全移行による駆け込み需要の反動減や、世界的なパソコン需要の低迷の影響を受けた情報通信機械工業のマイナス寄与が目立った。

また、建設業活動指数は前月比+2.5%と2ヶ月連続で上昇した。民間部門主体で持ち直しが続き、建設活動が正常化に向かっていることを示す結果となった。足元では耐震工事や震災で先送りされていた首都圏のビル建設などが活発化しており、今後も建設業活動指数は徐々に持ち直すことが予想される。

### ○ 需要項目別では、消費の低下が全体を押し下げ

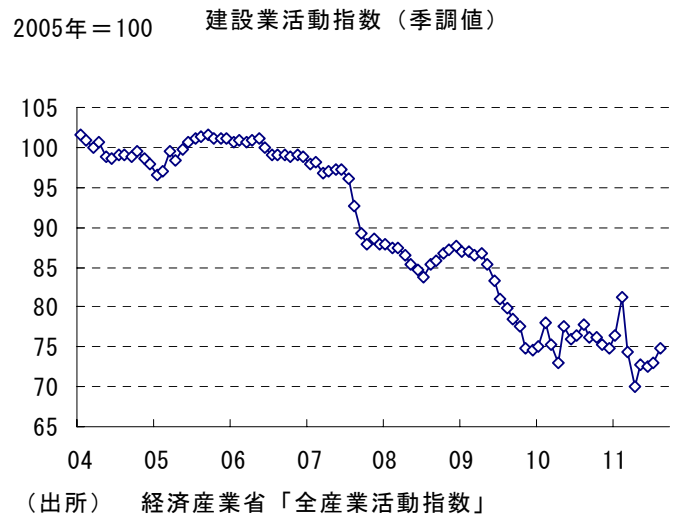
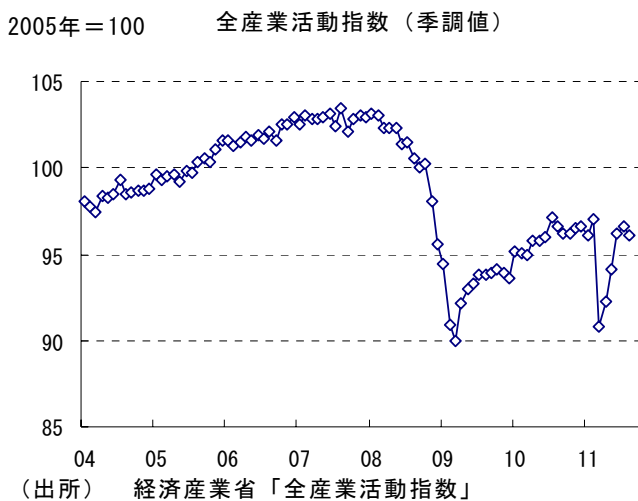
同日発表された全産業供給指数は前月比▲0.1%と低下した。需要項目別にみると、消費が同▲1.1%、投資が同+2.8%、輸出が同+1.4%、輸入が同+3.9%となった。薄型テレビ販売の反動減の影響などを受けた消費の低下を主因に、前月比マイナスとなっている。

### ○ 今後も力強い伸びは期待できない

以上のように、8月の全産業活動指数は5ヶ月ぶりに低下した。4月から急ピッチでの回復が続いたものの、足元での回復ペースは鈍化している。

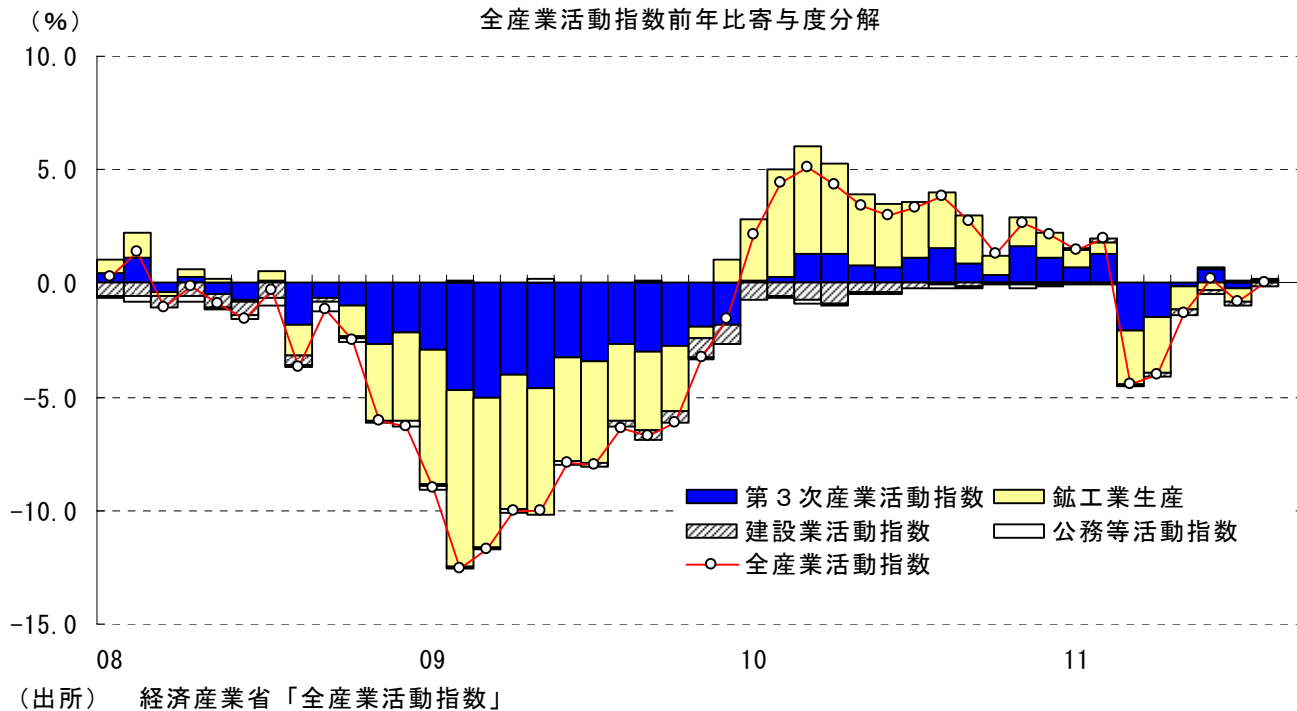
今後については、海外在庫復元に向けた自動車の増産や、建設活動の持ち直しが、鉱工業生産指数、第3次産業活動指数の企業部門、建設業活動指数を下支えるものと見られる。しかし円高や海外経済の減速が押し下げ要因となることで、回復の勢いは緩やかなものに留まろう。第3次産業活動指数の家計部門は、雇用や所得の持ち直しが限定的なものになると見込まれることから、回復感の乏しい展開が予想される。

以上を踏まえると、先行きの全産業活動指数については力強い伸びは見込み難く、緩やかな持ち直しに留まる可能性が高い。

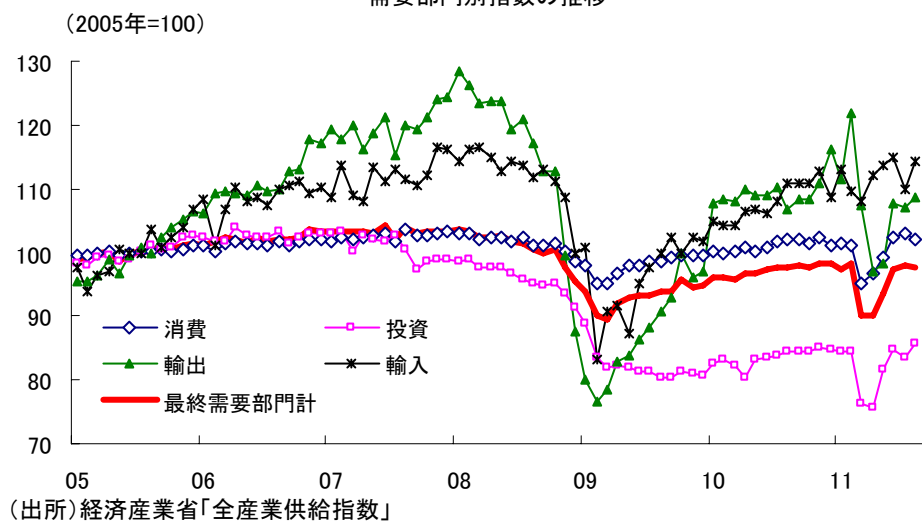


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

全産業活動指数前年比寄与度分解



需要部門別指数の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。